

## 〈帝国〉時代のコモンとコミュニケーション

The Common and Communication in the age of Empire

水嶋 一憲 (MIZUSHIMA Kazunori)

アントニオ・ネグリとマイケル・ハートが、グローバル化する現代世界を新たな視角から捉えるために呈示した〈帝国〉という概念は、今日も諸種の学問分野に強い影響をあたえている。それと並行して、グローバルなデジタルメディア・ネットワークが世界を覆い尽くしつつある現在、人々が分かち合い、人々を結びつけるコモンとコミュニケーションの動態や、両者の連関に大きな関心が寄せられている。本研究は、ネグリとハートのコモン論を主に社会哲学・社会思想的観点から再検討するとともに、デジタルメディア時代におけるコミュニケーションの働きを学際的視点から把握することを目的とする。3年間にわたる研究期間中(2014～2016年度)に、以下の成果をあげることを通じ、当初の目的を十分に達成することができたと総括できる。

### 【図書(共著)6冊】

- ① 水嶋一憲 「コミュニケーション資本主義における個性性と集団性」、伊藤守編著『デジタルメディア時代の公共空間』、東京大学出版会、近刊。
- ② 水嶋一憲 「ネットワーク社会の政治経済学」、「ソーシャル・メディアによるランキング機能」、伊藤守編著『よくわかるメディア・スタディーズ 第2版』、ミネルヴァ書房
- ③ 水嶋一憲 「情報資本主義」、西垣通・伊藤守編著『よくわかる社会情報学』、ミネルヴァ書房
- ④ 水嶋一憲 「〈帝国〉時代の戦争とコミュニケーション」、三元社編集部編『竹村民郎著作集完結記念論集』、三元社
- ⑤ 水嶋一憲 「〈帝国〉とソーシャル・メディア時代の政治的情動」『産研叢書38 プロジェクト共同研究<福祉・人権概念の転回と歴史認識の転換>』、大阪産業大学産業研究所、担当箇所は第2章。
- ⑥ 水嶋一憲 「ネットワーク文化の政治経済学：ポストメディア時代の〈共〉(コモン)のエコロジーに向けて」、伊藤守、毛利嘉孝編『アフター・テレビジョン・スタディーズ』、せりか書房、担当箇所は第1章。

【論文（単著）3本】

- ① 水嶋一憲 「制御社会における個性と集団性をめぐって：ポストオペライズモとポスト構造主義の交点への一視角」、『フランス哲学・思想研究』第21号、日仏哲学会、58-71頁。
- ② 水嶋一憲 「加速と隷属：機械状資本論ノート」、『現代思想』第43巻第10号、青土社、172-185頁。
- ③ 水嶋一憲 「転位しつづけるプロジェクトのために：スチュアート・ホールの闘いの遺産」、『思想』、No.1081、岩波書店、61-65頁。

【学会における招待報告（単独）2回】

- ① 水嶋一憲 「解体するスペクタクルと拡張現実への没入：2016年夏の出来事から〈共にある生〉のゆくえについて考える」、日独学术交流ワークショップ「3.11以降の日本社会と文化の変容」、早稲田大学・ボン大学主催、ドイツ・ボン大学、2016年9月。
- ② 水嶋一憲 「制御社会における個性と集団性をめぐって」、日仏哲学会・春季大会のシンポジウム「フランス思想におけるイタリア」における招待報告、京都大学文学部、2016年3月。